

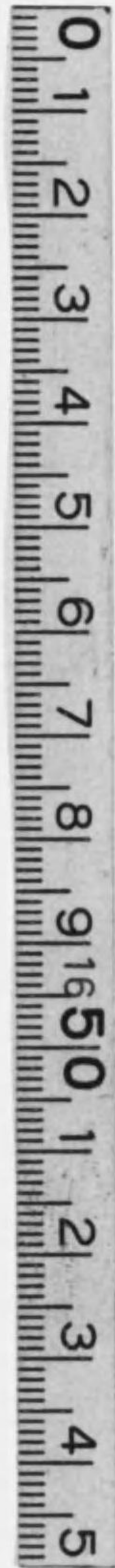
紙本

昭和拾貳年度業務功程報告

新潟縣染織講習所

特 241

424



始

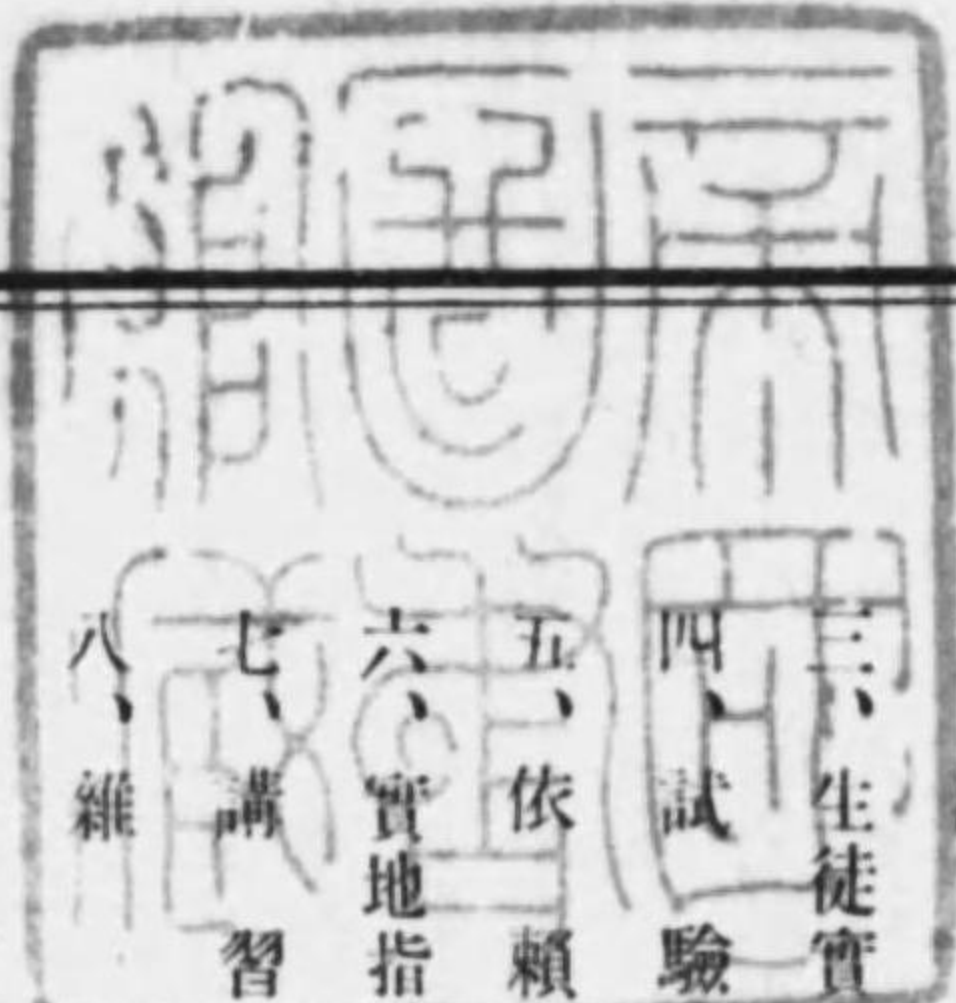


3  
5

特 241  
424

# 目次

一、概況	一頁
二、講習生	一頁
三、生徒實習生產品並二作業資金成績	四頁
四、試驗研究	五頁
五、依賴試驗	五頁
六、實地指導、質疑應答	二六頁
七、講習講話	二七頁
八、雜件	二七頁
九、職員擔任業務別	二七頁
一〇、雇傭員數	二八頁





## 一、概 況

本年度地方一般ノ業績ヲ觀ルニ從來ノ明石ヲ中心ニ意匠縮緬、袖、裏地、節織等ノ外新ニ廣幅人絹婦人服地ヲ加ヘテ産地相應ノ成績ヲ擧ゲ更ニ技巧ノ高級化ニ邁進シテ婦人「コート」或ハ「シヨール」等ノ雜貨物ニ進出シ製織技術モ漸ク圓熟セルノ感アリテ業界ハ概シテ穩健ニ經過シ事變影響ノ打撃モ輕微ナリシハ産地トシテ多幸トスルトコロナレドモ事變ハ更ニ擴大シ纖維工業界ハ未曾有ノ一大變動期ニ遭遇セルヲ以テ業者ニ對シ深ク時局ヲ認識スルヤウ種々ノ機會ニ警告ヲ發シタリ、一面又地方徒弟ノ素質水準ノ向上ヲ圖ルタメ六月二十一日ヨリ約五週間ヲ期シ當所ニ夜間講習會ヲ開催シ工場常識ノ涵養ニ努ムルト共ニ團体的作業精神ノ訓練ニ意ヲ拂ヒ又試験研究、依頼試験、實地指導、圖案調製等ニ付テハ別項所載ノ如ク、設備ノ許ス限り業者ニ利用セシメ特ニ近年ノ創業ニ係ル廣幅織物ニ關シテハ同業者ノ協力團結ヲ促シ經營ノ合理化ヲ計リ不絶市場ニ接近セシメテ敏速ニ見本ヲ作製シ商機ヲ逸スルコトノナキヤウ鞭撻シ此種ノ業績モ大イニ見ルベキモノアルニ至レリ

## 二、講 習 生

本所講習生ノ入所資格ハ本科生ハ高等小學校二年以上若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル男子、特別科生ハ尋常科卒業以上若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル男子ニシテ一ケ年以上染織業ニ従事シタル者、又、専修科生ハ本科卒業生ニシテ特ニ或ル科目ニ付研究專攻セントスルモノナルコトヲ條件トス、其ノ講習期間ハ本科ハ色染、機織各一ケ年、特別科並ニ専修科ハ各六ヶ月以上ニシテ孰レモ短期講習ナルヲ以テ高遠ナル學說及理論等ハ之ヲ避ケ可成卒業又ハ修業後直チニ實務

ニ就カシムルヤウ實利的養成ニ努メ而モ簡易ニシテ會得シ易キ基礎的知識技能ノ練磨習熟ヲ目的トシ之ニ圖案ヲ課シ更ニ隨意科トシテ英語、數學ヲ課シ以テ數理上ノ知識ト専門語ノ習得ヲナシツ、アリ

昭和十二年度入所講習生

科別	員數	地方別
色染本科	一五名	中魚沼郡一、北魚沼郡一、南魚沼郡一、三島郡一
機械本科	二〇名	刈羽郡一、古志郡一
機械特別科	一名	東頸城郡一
計	三六名	

卒業生並ニ修業生氏名

科別	本籍及住所	氏名
色染本科	三島郡大積村	杉倉敏男
	中魚沼郡貝野村	村山富平
	全魚沼郡外丸村	野村寅雄
	南魚沼郡鹽澤町	長野新一郎

機械本科

中魚沼郡水澤村	根津高明
全魚沼郡十日村	渡邊善行
全魚沼郡十日村	樋口善行
全魚沼郡十日村	佐藤久次
全魚沼郡十日村	高橋直次
全魚沼郡十日村	志賀周
全魚沼郡十日村	小田島寛
全魚沼郡十日村	杉山正邦
全魚沼郡十日村	高橋芳太
全魚沼郡十日村	大原孝三
全魚沼郡十日村	大庭正雄
全魚沼郡十日村	近藤武雄
全魚沼郡十日村	阿部道夫
全魚沼郡十日村	相澤一
全魚沼郡十日村	池澤喜一
全魚沼郡十日村	瀧澤文吉
全魚沼郡十日村	池田久芳

三、生徒實習生産品並ニ作業資金成績

種別	項別	實習		作業資金		合計	
		數量	價格	數量	價格	數量	價格
絹織物	絹織物	一五四	二四六三七			一五四	二四六三七
交織物	交織物	三三	三〇一〇			三三	三〇一〇
綿織物	綿織物	三〇	二八〇五	一、〇七四	六、三二一四六	三〇	二八〇五
人絹織物	人絹織物			一八〇	八八六三一		
燃系加工料	燃系加工料						
捺染加工	捺染加工	三五	三五〇〇			三五	三五〇〇
絹糸精練	絹糸精練			一、三三二	一六八六六	一、三三二	一六八六六
絹糸半練	絹糸半練			六八〇	七二二	六八〇	七二二
絹糸濃染	絹糸濃染			二、三四七	三三二一四	二、三四七	三三二一四
計							

機織特別科

東頸城郡 十日町 高澤好一  
 中魚沼郡 全郡 中澤喜一  
 刈羽郡 柏崎町 佐藤太一  
 長谷川辰  
 吉野村 杉山圓  
 東頸城郡 松之山村 杉山圓  
 東頸城郡 松之山村 杉山圓

四、試験研究  
色 染 部

絹糸淡染	二七六、九〇〇	二一三三	二七六、九〇〇	二一三三
絹布濃染	五四三	五二九八〇	五四三	五二九八〇
絹布淡染	二二二	一五三三〇	二二二	一五三三〇
絹糸乾燥	四三五、三七五	二二八七	四三五、三七五	二二八七
絹糸漂白	五八、〇六三	二〇七一	五八、〇六三	二〇七一
絹糸依頼染色	二二五、二〇四	三六一九四	二二五、二〇四	三六一九四
捺染現反加工	一、八三五	一八三五	一、八三五	一八三五
人絹布濃染	二	一三〇	二	一三〇
人絹布淡染	五	二七〇	五	二七〇
人絹糸漂白	五七、一五一	三七九〇	五七、一五一	三七九〇
人絹糸依頼染色	一、四六八、〇三六	一、七二三五	一、四六八、〇三六	一、七二三五
其他	一、二〇〇	一四一五	一、二〇〇	一四一五
計	一、二五、五〇〇	一〇、五六五四八	一、二五、五〇〇	一〇、二四九〇

(1) 人絹糸ノバット染料、ナフトール染料浸染後ノ處理法

目的 バット染料、ナフトール染料等ニテ染色セル人絹糸ハ繰返工程ニ於テ繰切レ縫レヲ生ジ其ノ能率ヲ低下スヨツテ之ガ防止ヲ考究ス

方法 實驗方法

一、種々ナル糊料ヲ用ヒテ比較試験

二、糊付ケ操作法

三、染色後ノ脫水法

一、種々ナル糊料ヲ用ヒテノ比較試験

a デキストリン 二%

b ゼラチン 二%

c デキストリン 一%

d ピースワックス 一%

シヤパンワックス 一%

オレイン酸 一%

オリブ油 一%

澱粉糊 一%

二、糊付ケ操作法

総糊付法ニヨリ次ノ如クシテ絞ル

一、種々ナル糊料ヲ用ヒテ比較試験

二、糊付ケ操作法

三、染色後ノ脫水法

結論

實驗一ニ於テハc法最モ良好  
實驗二ニ於テハc法及ビb法最モ良好  
實驗三ニ於テハb法最モ良好

(2)

目的

ナフトール染料ノ各種纖維ニ對スル發色比較試験  
ナフトール染料ハ纖維ノ種類ニヨリ發色状態  
全然異ナルモノアリ、依ツテ之ガ比較試験ヲ爲シ標本ノ製作ヲ行ヒ以テ當業者ニ展  
示セントス

方法

各種纖維(本絹、人絹糸、艶消人絹)ヲナフトールAS各種下漬劑ヲ以テ一般法ニヨ  
リ下漬ヲ行ヒ、フアストソルト各種顯色劑ヲ使用シテ濃、中、淡ノ色相ニ染色シタ  
ル後硅曹四%、石鹼一五%ニテ四時間煮沸精練ヲ施シ更ニ過酸化水素八%攝氏七〇  
度ニ一時間漂白ヲ施行セリ

結論

今日迄ノ試験ノ結果大要左ノ如シ  
本絹ハ一般ニ人絹ニ比シ濃色ニシテ且ツ黯ミタル色相ヲ得、精練漂白試験モ人絹ヨ

リ變色並ニ脱色スルモノ多シ人絹艶系ハ最モ鮮麗色ヲ得且ツ艶消系ヨリ一般ニ濃色ヲ得タリ  
 精練、漂白試験ニ對シテハ兩者トモ差異ヲ認メズ  
 尙爾餘ノナフトール染料ニ就キ昭和十三年度モ繼續試験中ナリ  
 (3) 特殊交織布染色試験  
 目的 ビスコース系、セラニーズ系、絹紡交織布ノ染分試験  
 方法

- (一) 人絹ヲ染色シ絹紡染色セズ  
 染料、直接染料 一 %  
 石 鹼 五 %  
 ソーダ灰 〇、五 %  
 以上ノ染浴c五〇度トナシ、四五—六〇分操作シ先ヅ人絹ヲ染色シ水洗スル
- (二) 絹紡ヲ染色スル  
 醋 酸 三 %  
 酸性染料 一 %  
 以上ニテ絹紡ノミ染色スル
- (三) ビスコース、絹紡ヲ同色ニ染色スル  
 染料、直接染料 一 %  
 石 鹼 二 %

結論

磷酸ソーダ 二 %  
 以上ノ染浴ヲc、五〇度トナシ被染物ヲ入レ徐々ニ昇温シツ、四、五分間位染色スル

- (一) ニ適スル染料  
 ダイアエル、フアストスカイレットG S N、4 B S N、8 B S  
 オキザミンレット3 B  
 ペンゾフアスト、スカイレット4 B S、2 G  
 ダイアニルオレンヂG  
 クロラミンオレンヂG  
 ダイヤニルエロI 3 G  
 オキシダイアミンエロI O  
 ダイイアニルダイレクトエロI S  
 ダイアミンフアストエロI A  
 オキシダイアニルエロI O  
 ダイアニルブルー、G、B、R、H G、H 2 G  
 ダイアニルビユワイブルーP H  
 オキザミンブルー3 R  
 ダイアミンスカイブルーF F

ダイアニルダークブルーR  
プリファアントペンゾブルー6B  
オキザミンヴァイオレット  
ダイアミンヘリオトロープO  
ダイレクトブラウンBO  
ペンゾクロムブラツクB  
ダイアミンブラツクBH

(二)ニ適スル染料

ダイアミンファストスカイレットGSN、4BSN  
ダイアミンスカイレットHS  
ダイアニルファストレットPH  
ブルトオレンヂG  
ダイアニルファストオレンヂ  
コウトンオレンヂG  
トルイレンオレンヂR  
クリソフエニンGS  
ダイアニルコロ3G、2R、GC  
ダイアミンエロIN  
クリサミンRG

オキシダイアニルエロI  
ペンゾダークグリーンB、GG  
ダイアニルグリーンGN、BN、2BN  
ダイアニル、アヂユリンG、3G、3R  
ペンゾブルーRW  
ペンゾサイアニン  
ダイアニルダークブルーR、3R  
ダイアニルファストブルーGL  
ブルトブラウンGG、R  
ダイアニルブラウンBO、MH、G、RO  
ダイアニルファストブラウンB  
ダイアニルファストグレイ2BL  
ダイレクトデイープブラツクF  
ダイアニルブラツクES、CR

(4)

柞蠶糸交織絹布ノ染分け染色試験

目的 柞蠶糸ヲ交織セル絹布ヲ染色スルニ當リ柞蠶糸ヲ染色スル事ナク本絹糸ノミヲ染色セントスルモノナリ

方法

(一)染料

所要量



芒 硝 五〇%  
 攝氏六〇—九〇度ニテ染色  
 (一) 染料 所要量  
 硅 曹 少量  
 攝氏六〇—九〇度ニテ染色  
 (二) 染料 所要量  
 マルセル石鹼 二%  
 攝氏六〇—九〇度ニテ染色  
 (三) 染料 所要量  
 磷酸曹達 一%  
 攝氏六〇—九〇度ニテ染色  
 (四) 染料 所要量  
 芒 硝 二〇%  
 攝氏六〇—九〇度ニテ染色  
 (五) 染料 所要量  
 芒 硝 五〇%  
 攝氏六〇—九〇度ニテ染色後磷酸曹達一〇%温液ニテ處理  
 (六) 染料 所要量  
 芒 硝 五〇%  
 攝氏六〇—七〇度ニテ染色後  
 磷酸曹達 少量

モノゲン 一〇%  
 ノ温液ニテ處理水洗スル

(5)

結論 (五)(六)ヲ良好ト認メ内(六)法最良トシテ一般需要者ニ示ス  
 羊毛総糸染色試験  
 目的 地方機業家ノ要望スルトコロアリ羊毛総糸染色ヲ行ハントス  
 方法

(一) 處理法  
 (A) 過酸化水素處理法  
 (B) 鹽素處理法  
 (A) 法ヲ良好トス(B)法ハ染料及媒染劑ノ吸收ヨクモ堅牢度不良ナリ  
 (二) 媒染法  
 重クロム酸加里 使用染料量ノ $\frac{1}{2}$ 量  
 蟻 酸 一〇—二〇%  
 攝氏八〇度前後ニテ三〇—四〇分處理後温湯洗滌  
 (三) 染色法  
 染料 所要量  
 食 鹽 一〇—三〇%  
 蟻 酸 一〇—四〇%  
 攝氏八〇度前後ニテ三〇—四〇分間染色ス

(四) 蒸熱法

蒸箱ニ染棒ニ掛ケタマ、三〇——四〇分間蒸熱ス

(五) 後處理

モノゲン二——五%攝氏八〇度ノ温湯ニテ處理シタル後温洗滌ヲ施ス

結論 同染色ニアタリ毛糸相互ノ密着縮絨セシムル事ナク後練リニ堅牢染色ヲ要求スルモノニテ所期ノ目的ヲ達成シ業者ノ要求ニ應ジツ、アリ

(6) 明石縮用絹糸半練法

目的 明石縮用絹糸ヲ半練トシ本練ニヨル減量ノ缺點ヲ補ヒ且ツ本練絹糸ノ如キ風味ヲ發揮セシメ以テ明石縮製織業者ノ利益ヲハカラントスルニアリ

方法 (各法共囊練法)

(A) 石 鹼 三%

モノゲン 二%

精練時間三時間途中一回中上ゲヲ行フ

(B) 石 鹼 三%

モノゲン 二%

モノポール油 一%

其他全前

(C) モノゲン 四%

ニューメイドオイル 二%

其他全前

結論 (A)(B)(C)各法共大差ナキ結果ヲ得タレ其中C法ニヨルモノ稍々良好ト認ムヨツ

テ同法ヲ一般業者ニ推メ且ツ指導シツ、アリ

(7) 明石縮用絹糸生染法

目的 明石縮用絹糸ノ染色ニ當リ精練ニヨル練減消耗ヲ無カラシメ且ツ練糸ノ如キ柔軟味ヲ與ヘ明石縮獨特ノ風味ヲ損ゼザル染色法ヲ得ントス

方法 染料 所要量

醋 酸 六%

最初ニ染料液中ニ操作ヲ行ヒ次ニ醋酸ヲ分和シ吸收ヲ完シメ昇温シタル後同液中ニモノポール油四%ヲ添加シ更ニ操作ヲ續ケタル後引上ゲ温洗滌ヲ行フ(水洗ヲ避ク)

結果 良好ト認メ本法ニヨリ依頼作業ニ應ジツ、アリ

(8) 明石縮用半練絹糸ノ納戸色均等染色法

目的 明石縮ノ納戸無地製織者ノ困難トスル本練絹糸及生染均等染色ハモトヨリ更ニ進ン

デ半練絹糸ノ納戸色均等染色法ヲ得一般業者ノ要求ヲ滿サントスルニアリ

方法 染料 ラデオフルーB 所要量

又ハプリアントミールングブルーB

赤味ノ納戸ヲ望ム場合ハ少量ノシルクバイオレットBXヲ加フ

足止劑トシテソーダ少量トモノゲンヲ添加シヨク操作ヲ行ヒ徐々ニ加熱シタル後最

後ニ醋酸ヲ十回以上ニ分加シ染色スル(操作ニ注意スルヲ要ス)  
後水洗、糊付乾燥  
結論 良好ト認め本所作業部ニ於テ目下繼續施行中ナリ

機 織 部

(1) 人絹兒服地製織試驗

目的 雜貨用織物試驗ノ爲

方法 經系 白ダイヤ一五〇デニール(白)及ビ普通ビスコース二〇〇デニール(赤)

緯系 經系ト同様

密度 經系一纏間三四本 緯系一纏間三二本

筵 一纏間一七羽 一羽二本引込

筵通巾 八三種

織上量 四〇〇〇瓦 仕上量 三六五〇瓦

織上長 三四、四 米 仕上長 三二、二〇米

織上巾 八一種 仕上巾 七五、五種

結論 兒服地トシテ適切ナルモノヲ得テ市場ニ見本ヲ配布セリ

人絹經緯ビツケ應用兒服地製織試驗

目的 廣巾織物試驗ノ爲

方法 經系 一二〇デニールダイヤ艶消

地 經 燃系(一纏間一七)色系ニテ燃系スル

地經白 一二〇デニール(平系)ビツケノ部分ハ平系トス

緯系 一二〇デニール、人絹ダイヤ艶消系(一纏間一七強)燃系及ビビツケハ平系

密度 經系 一纏間三〇本 ビツケ一纏間六〇本

緯系 一纏間四〇本

筵 一纏間一三羽 地經一羽二本引込 ビツケ經四本引込

筵通巾 八九種

整經長 五五米

織上量 四、八〇〇瓦 仕上量 四、五〇〇瓦

織上長 五一、二米 仕上長 四六米

織上巾 八七種 仕上巾 七四種

結論 結果良好ニシテ兒服地トシテ適當ト認め各方面へ見本配布ス

風通組織應用人絹兒服地製織試驗

目的 廣巾織物試驗ノ爲

方法 經系 一二〇デニール人絹ダイヤ艶消

緯系 一二〇デニール(平系)トヲ一本交互配列

緯系 一二 デニール、人絹ダイヤ艶消強燃系

密度 經系一纏間五二本 緯系一纏間五二本

(4)

結論 結果良好ニシテ市場ニ見本トシテ配布ス  
裏朱子ビツケ縞兒服地製織試験

方法 經系 ダイヤ艶一二〇デニール  
緯系 ダイヤ艶一二〇デニール 強撚糸及セラニーズ人絹ヲ緯格子ニ織込ム

筵通巾 八七種  
密度 一種間一八羽  
織上量 六、七五〇瓦 仕上量 六、四〇〇瓦  
織上長 四五、七米 仕上長 四〇、二米  
織上巾 八三種 仕上巾 七三、七種  
組織地ノ部分ハ裏朱子(五枚)トシ、ビツケ組織ニテ縞ヲ表シ他ノ部分ニセラニーズヲ横格子細線ニテ入レタリ

(5)

結論 結果良好ニシテ市場ニ見本配布シ相當ノ注文ヲ受ケタリ(臺灣行トス)  
絹糸及人絹交織婦人用レインコート地製織試験

方法 經系 生糸二十一中二本双撚  
緯系 人絹一二〇デニールダイヤ艶消糸

密度 經系一種間一〇四本 緯系一種間三三本  
筵 一種間二六羽 一羽四本引込  
筵通巾 七八種  
織上量 四、一二五瓦 仕上量 三、九四〇瓦  
織上長 五〇、二米 仕上長 四六、六米  
織上巾 七四種 仕上巾 六八、六種  
整經長 五五米  
地色ニ納戸ト白ノ格子トス

(6)

結論 市場見本配布シテ相當ノ注文アリ  
人絹及スフ交織婦人兒服地製織試験

方法 經系 人絹一二〇デニール強撚糸及ビーニ〇デニール人絹平糸ヲ二重男卷ヲ以テ分ツ  
緯系 人絹一二〇デニール強撚糸及ビスフ系六番ヲ使用ス

(7)

目的 紋風通應用婦人服地製織試驗

結論 市場ニ見本配布シテ相當ノ注文アリ

方法 經系 人絹一二〇デニール 白及黒染系

緯系 人絹一二〇デニール 黒染強燃系及白系(平系)

密度 一極間經六〇本 緯系五二本

箆 一極間一五羽 一羽四本引込

箆通巾 一〇七種

結論 市場ニ見本配布シ目下相當注文アリ

裝置 千口パンサンジ一機ヲ使用ス

(8)

目的 人絹冬物(スフ應用)婦人兒服地製織試驗

方法 經系 一二〇番人絹ダイヤ染系及スフ四十番諸系染系、縞割、人絹黃染系六本、スフ黒染系十四本及ビ人絹黃染系六本、スフ赤染系十四本トヲ配列ス

緯系 經系ト同様ノ配列ニシテ人絹ニ強燃ヲ施ス

密度 經系一極間二八本

箆 緯系一極間二九本

箆通巾 一極間一四羽 一羽二本入

箆上量 六、三七〇瓦

箆上長 四五、七米

結論 市場及ビ當業者ニ見本ヲ配布セリ

目的 廣巾織物試驗

方法 經系、緯系共原料ハ前試驗ト同様ナルモ柄ハ地ノ部分ヲ人絹、燕脂染系、縞ヲスフ四十番黒染系ヲ配列シ緯モ同様配列ニテ格子トナセリ

織上前と同様  
市場及當業者ニ見本ヲ配布セリ

### 五、依頼試験

#### 色 染 部

(1)

ビスコース人絹、セラニーズ人絹系交織物ノ精練漂白試験

目的 普通ノ精練法ニテ行ヘルモノハ「セラニーズ」ヲ變質セシメ染色工程ニテ同色ニ染色サル、故異ナリタル色ニ染色出來得ル様ニスルモノナリ

方法 精練法

石 鹼	一〇%
硅 鹼	〇、五%
温 度	沸騰
時 間	一時間

結論 良好ナリ、但シ長時間精練ヲ行ヘルモノ、酸化漂白ヲ行ヘルモノハ結果不良ナリ

(2)

備考 中魚沼郡十日町 住吉織物株式會社依頼

目的 同染色試験  
セラニーズ交織物異色ノ結果ヲ目的トシ且ツ銀系ニ安定ナル染料ノ撰定及染色法ヲ

試験セントス

方法 助劑トシテ次ノ藥劑ヲ添加シ比較試験ヲナス(染料ハ直接染料ヲ使用ス)

### 結論

- 一、磷酸曹達
  - 二、硅酸曹達
  - 三、アンモニヤ
  - 四、重曹
  - 五、重曹及モノゲン
  - 六、石鹼
  - 七、食鹽
- 以上普通染法ニヨリ染色ス
- 一、セラニーズ銀系共ニ汚染
  - 二、銀系變色、セラニーズハ乾燥状態ニ至リ自ラ變化ス
  - 三、全右
  - 四、銀、セラニーズ共良好
  - 五、全右
  - 六、最モ良好
  - 七、不良
- コレニ適スル染料次ノ如シ
- タリソフエニン
  - タートラジン
  - ユニオン
  - ファスト
  - エロイG

シリアス オレンジ G、S G  
 シリアス レッド 2 B  
 バラチン スカーレット A  
 シリアス ブラウン R  
 デフェニール ファスト グリーン B  
 ネブチング グリーン  
 シカゴブルー 6 B  
 ダイアミンスカイ ブルー F F  
 サイアナス ロール  
 ウール ファスト マリオン ブルー H 2 B  
 シリアス バイオレット 2 B  
 パラチン ブラック 2 M、S F

備考 中魚沼郡十日町 住吉織物株式会社依頼

(3) ベンベルグ絹染色堅牢度試験

目的 ベンベルグ絹系染色酸アルカリ摩擦ニ對スル堅牢度試験  
 方法 醋酸一%水溶液ヲ攝氏三八度ニ温メ其ノ液中ニ可檢系及添付系ヲ浸漬一〇分間ニシテ引上水洗シテ乾燥スルモノトスル  
 アルカリ試験 結晶炭酸曹達ノ一%水溶液ヲ攝氏九七度ニ熱シ其液中ニ可檢系ヲ添付系ト共ニ浸漬スル事一〇分間ニシテ引上ゲ水洗シテ乾燥スルモノトス

結論 良好ト認ム  
 備考 中魚沼郡十日町 角田工場

機 織 部

(1) 夏物白生地用變リ縮緬緯系燃系試験

目的 夏織物白生地緯系ヲ得ント  
 方法 飾燃系機ニヨリ十四デニール生糸及縮緬緯系等ヲ以テ變リ縮緬緯ヲ作ル  
 結論 相當ナルモノヲ得タリ  
 備考 十日町 角田工場依頼

六、實地指導、質疑應答

一、實地指導

色 染 部 綿糸ノ凝麻加工ニツイテ 一  
 紅色刷毛染ニツイテ 六  
 ナフトール染料刷毛染ニツイテ 二  
 絹布精練晒白法ニツイテ 三  
 摩擦不堅牢染色ノ堅牢化ニツイテ 一  
 紋付黒ノ汚點抜ニツイテ 一  
 人絹廣巾織物ニ就イテ 三

機 織 部

廣巾織物設計ニ就イテ  
燃糸ニ就イテ  
二、質疑應答  
色染部  
機械部

一  
二  
三五件  
三六件

七、講習講話

開催地	月	日	講習講話要旨	講師	聽講者
本所夜間講習會	自六月二十一	至七月二十四	工業常識	角田所長	一〇九名
全	全	全	圖案法	安藤技手	全
全	全	全	織物組織	小川技手	全
全	全	全	力織機講學	森本技手	全
全	全	全	色染學	野口技手	全
全	全	全	精練、漂白	片桐技手	全
全	全	全	織物組織	小川技手	四〇名
全	全	全	力織機講學	森本技手	全
全	全	全	色染學	野口技手	全
全	全	全	精練、漂白	片桐技手	全

八、雜件

一、來訪者並ニ參觀者  
來訪者 七四名  
參觀者 二五八名

二、文書收發件數  
發送 九〇  
收受 四二一

三、所員出張回数  
管外 七  
管內 一八

九、職員擔任業務別

(昭和十三年三月三十一日現在)

受持學科	分掌事務	官職	氏名
修身、織物試驗法	庶務會計主任	地方商工技師	角田探米
圖案法、數學	圖案部主任	商工主事補	柳彦造
	兼教務主任	商工技手	安藤俊雄
		主事補	
		助手	
		所長	
		技手	



組織分解、織物原料	機械部主任	商工技手兼	小川剛
力織機、物理、機械	機械部員	商工技手	森本榮吉
工學、英語、數學	色染部主任	全	野口秀治
化學、色染法、英語	色染部員	全	片桐周次郎
精練、仕上法			

一〇、雇傭員數

助 手	三 名	特別會計	一 名
所 醫 手	一 名	男	八 名
機 關 手	一 名	女	
全 手	一 名	工	
男 工	一 名	工	
女 工	五 名		
小 使	一 名		
炊 婦	一 名		
合 計	二 三 名		

昭和十三年八月十日印刷  
昭和十三年八月十四日發行

新瀉縣中魚沼郡十日町  
發行所 新瀉縣染織講習所

新瀉縣長岡市表町三丁目  
印刷人 岩 瀬 直 藏

新瀉縣長岡市坂八上町二丁目  
印刷所 株式會社 北 越 新 報 社

終

本誌ノ寸法ハ、商工省工業品規格統一調査會決定ノ「紙ノ仕上寸法規格」A列5番(148mm×210mm)ニ據ル。

3  
74